

事務事業名	保育ママ利用者助成事業			担当	健康福祉部 児童家庭課 保育係			
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-8035		
施策名	02	子育て支援の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成10 年度～） <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
法令根拠	真岡市保育ママ利用者保育料助成事業実施要綱							
予算科目	1. 一般会計	3. 民生費	2. 児童福祉費	2. 児童措置費				
事業概要	<p>【保育ママ制度】昭和46年から実施。当時の保育所は0歳児を預かっていなかったため、0歳から3歳までの保育を始めた。 【保育ママ】子育ての経験のある家庭の主婦。1人で児童3人まで保育。預けたい人を保育ママの会長（保育ママ連絡協議会）へ紹介【保育時間】8時から17時30分まで。土曜、日曜、祝祭日、盆、正月休みを除く。【保育料】45,000円/月【保育条件】共働き世帯、ひとり親世帯等【特徴】家庭的保育をする。【保育ママ会員数】8人（平成23年度末現在） 【助成】補助額：1人目5,000円（H10～）、2人目33,750円（3/4補助、H13～）</p>							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 保育ママ利用者への保育料助成 利用者が助成申請書を市に提出、年2回（9月・3月）、口座振替により支払い 25年度計画 同上	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア	助成利用乳幼児数		29	29	23		
	イ	助成総額		1,284	1,395	1,185		
	ウ エ オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 0歳児から3歳児までの乳幼児	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア	0歳児から3歳児までの乳幼児		3,153	3,104	3,078		
	イ	(各年4/1現在)						
	ウ エ オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 保護者の保育料負担軽減を図る。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア	保育料の負担軽減が図られた保護者の数		28	28	22		
	イ ウ エ オ							
	④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 子育てと仕事の両立を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
ア		仕事と子育てが両立できている世帯の割合		59.8	55.3	57.6		
イ ウ エ オ								

(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
投入量	事業費 財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	1,284	1,395	1,185	0
		事業費計(A)	千円	1,284	1,395	1,185	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	8	8	8	0
		人件費計(B)	千円	32	34	34	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	1,316	1,429	1,219	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	<ul style="list-style-type: none"> 昭和46年度から保育ママ制度があったが、利用者から利用料金が高いとの意見が多かった。 経済的負担を軽減するため保育所の保育料と同じく助成することにより、利用者の増加を図るとともに家庭的保育の場を確保する狙いがあった。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年度に市保育ママ利用者保育料助成実施要綱を制定して、利用者の軽減をはかるため、1人当たり5,000円/月を助成する事業を開始した。 平成13年度から2人同時の場合の助成金額を増額した。（3/4補助、33,750円）
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 保育料の負担軽減により子育て支援を図ることは、市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 子育て支援策として、保護者の経済的負担を軽減することは妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 0歳児から3歳児の保護者全員を対象に、経済的負担の軽減を目的としている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 保育ママ利用者保育料助成事業実施要綱により助成しているため、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 保護者の経済的負担の軽減が図れない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 保護者の経済的負担の増加につながるため、削減できない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 最小の人件費のため削減の余地がない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 0歳児から3歳児の保護者全員を対象にしているため公平・公正である。 受益者負担は、利用者と受託者(保育ママ)が協議して定めている。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							